

あらすじ

沖縄本島北部。やんばるの森の中にある豊かな自然に囲まれた人口160人ほどの山村、東村・高江区。その高江集落は周りを米軍のジャングル戦闘訓練場に囲まれ、頭上には巨大な軍用ヘリが昼夜を問わず日常的に飛び交う。すでに戦場の中に暮らすような恐怖を味わっている高江の周りに、6つのヘリパッド（着陸帯）が新設されるという。そこには死亡事故の多い新型輸送機オスプレイが配備される。『これ以上ヘリが飛んだら、しかもオスプレイまで飛ぶようになったら高江に人が住めなくなる。』建設に反対し座り込みを始めた住民たちを、国は『通行妨害』で訴えた。

同じ日本にいなから表面的なことしな知らず、沖縄の方たちが突きつけられている現状を知り愕然としました。この映画をたくさんの方に観ていただきたいと切に思います。

40代主婦

平和とは何なのだろう。自分に何ができるだろうか？ 私たちはもっと知らなければならぬ。いし、考え続けなければならぬ。

30代女性 2児の母

国民の声、住民の声が届かない日本の現状がこんなにもあるのだと知りました。心の平和なくして平和といえない。考える機会を頂きました。

50代女性

その中には、一度も現場に行ったことのない当時7歳の女の子も含まれていた。国策に反対して座り込んだ住民を国が訴えるという前代未聞の裁判。反対運動を萎縮させるSLAPP裁判(*)だ。

オスプレイの強硬配備を受け沖縄の怒りはついに爆発する。台風17号の暴風の中、人々は身を投げ出し車を並べ、アメリカ軍普天間基地を完全に封鎖した。やがて沖縄県警の機動隊が座り込み排除に動き出し、県民同士の激しい衝突がおこる。しかし、その様子が全国のニュースとして伝えられることはなかった、。

(*) 力のある団体が声を上げた個人を訴える弾圧・恐喝目的の裁判をアメリカではSLAPP裁判と呼び、多くの州で禁じられている。

上映によせて

ある『標的の村』上映会で、私の前に座っていた若いお母さんが、ずっと泣いていました。私も初めて劇場で観たとき、怒りと悲しみで体が震え、見終わった後、しばらく立ち上がることは出来ませんでした。私の知らない沖縄がそこにありました。何としても松戸で上映したいと思いました。戦争中はもちろん、戦後の70年間、私たちはずっと沖縄に犠牲をしいて、その犠牲の中身を知ろうとさせず、無責任さ無関心さで日々を過ごしてきてしまいました。オスプレイ配備、辺野古の海の埋め立てなど、もう無関心でいることは、人として許されません。それは、私たち自身の生活とも深くつながっているように思います。まずは事実を知ってください。一人でも多くの人に観ていただきたい。

沖縄の現実、日本の現実、本当に胸が苦しかった。日本という国がどこへ向かおうとしているのか、一人一人が注意深く見て、行動をおこしていなければならぬと感じた。

30代女性

2014年7月4日(金)

場所・松戸市民劇場ホール
(松戸駅西口より徒歩5分)



上映スケジュール (上映時間91分)

- 1回目 10時開場
10時30分開演 12時終演予定
終演後 琉球新報東京報道部長
島洋子さんトークショー
- 2回目 14時開場
14時30分 トークショー
15時開演 16時30分終演予定
- 3回目 18時開場
18時30分開演 20時終演予定

料金・大人1000円
大学生500円
高校生以下 無料

*振込先・ゆうちょ銀行
00190-3-360070 小林和子

*保育についてはお問い合わせください。

主催・『標的の村』を松戸で観る会
問い合わせ先

杉見090-3248-3433 ・ 神吉090-9139-4950